

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ハッピー西船橋教室		2025 年 10 月 1 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		利用者の相性や状況により適宜変更している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		子どもの状態によって配置数を増やすこともある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	賃貸の中でできることはしている	乳児用おむつ交換台がないため不便な所がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	子どもの特性や年齢によって部屋の机などの配置に気を付けている。	整理整頓の余地はあるため月に数回の掃除を心掛けていきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		クールダウンが必要な時は空き教室を利用する事が出来ます。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		支援並び運営について職員同士で会話を多くする機会がある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		加えて面談も実施している	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		職員会議で意見のすり合わせを行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8	内部監査室にて年に一度監査対応している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		職員研修や事例検討会議など定期研修を行っている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		利用者の情報の共有を行っている	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		しっかりと面談を実施しており、アセスメント以外でも聞き取りを行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		検討会議の他にも日々利用者の申し送りなど行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		支援計画の見直しは常に行い良き支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		児童の成功事例など日常で話が出来る環境を整えている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		アセスメント内にそれらは記載されており、聞き取りも出来ている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		全員で協力し活動プログラムの立案を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		イベントなどを適宜開催している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		個別+集団の組み合わせで必要な分を取り組んでいる。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		イベントや集団支援などではすり合わせの時間を設けて行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		活動中での振り返りを都度、指導員間で実施している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		ケース記録内で気になった課題について朝終礼で報連相を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		必要であれば個別支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		児発管がメインではあるがどの指導員が入っても関係機関との連携が出来るよう密な情報共有を行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		必要に応じて関係機関との連携を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		保護者の許可があれば積極的に連携をとっている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		教育センターを通して引継ぎシートの共有、就学後の担任への電話かけなどを行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8		児童発達支援センターにて研修を受けたり助言をいただいたりしている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	3	外部のイベントには指導員が参加したこともある。しかし、回数は少ない。	地域の祭りの参加など外部イベントの参加を検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		フィードバックのみだと情報が不足するため、家族支援も積極的に取り入れることができている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		家族支援プログラムは適宜開催し全利用者へ到達し参加を募っている。		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時、見学時に説明を行っている。また保護者より質疑などあった時には適切に受け答え出来るようにしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		アセスメント面談の他に家族支援や面談を行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		説明を行いながらサイン捺印をいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		定期的な家族支援の面談を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	1	イベントを積極的に開催しており、交流の機会は盛んである。保護者会は年間4回を目標に実施するよう計画をしている。	頻度の見直しを今後行う予定。

保護者への説明等	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		当日の面談は部屋の数により出来ない場合もあるがスケジュールを調整し別日で必ず実施している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		行事予定などは教室内で掲示、アプリにて告知を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		保護者より依頼がない場合は関係機関には通達していない。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		保護者に応じて対応方法や時間を考慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4	見学会を実施している。 放デイ協議会が実施している事業所見学会に参加している。	安全面や個人情報の観点からあまり積極的ではない。地域還元を目的としてどのように対応していくか検討の予知がある。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		年に2回の消防訓練の実施、利用者保護者の参加の促しを行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		施設内の災害情報の掲示にて保護者の目に届くよう掲示している。総合防災訓練については年1回実施しており児童参加の実績もある。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		見学やアセスメントで聞き取りを行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		アレルギーについては書類を見学時に記載してもらっている。 現在は食事提供がないため該当者おらず。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		会社内で安全計画を作成しておりそれに準じて対応している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		契約時に安全計画については保護者へ通達している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		月に一度職員会議にて前月のヒヤリハットの報告をしている。またヒヤリハットの報告は発生した日に職員へ通達、朝終礼でも確認している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		会社内部外部にて取り組みを行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		対象者については見学やアセスメント時に聞き取りを行い個別支援計画に記載している。		